

夏季気仙沼市大島でのボランティア活動 活動レポート

(経済) 学部・(4) 年

1. 今回のボランティア活動を通して感じたことを記入してください。

復興は次の段階に入っているのだなと感じた。特に大島の村上さんのお話で、大島が現在2派に分裂してしまっているという話を聞いたとき、“復興”がいかに難しいものであるかを思い知らされた。単純にものが戻ればよいという問題ではなく、目に見えない部分の復興が最も難しいのだと改めて感じた。今まで外部の人間として何が出来るかを考えていたが、実際に被災地を目で見て、耳で聞くことで、少しでも当事者に近い形で何が出来るのかを考えるようになったように思う。

2. 今後、被災地支援のために何をすべきだと思いますか、また、何をしたいですか。

経済的な支援がやはり最も大切なのではないかと今回強く感じた。募金活動、ボランティアによる人的な支援はもちろん重要だが、そのような目的を持った行動でなくとも、被災地に“行く”だけでも復興の力になれるのではないかと感じた。気仙沼市場で特産物を食べる、買う。そういった行為こそ今の被災地支援には大切なのではないと思う。

3. 被災地支援へのアイデア（イベントの提案や活動方法など）を記入してください。

復興市場(今回の場合は復興屋台村 気仙沼横丁)を積極的に利用すべきだと感じた。今回は時間的な問題でほとんど見る事が出来なかったが、トイレ休憩の時少しだけ覗くことができた。その際お店の方々が特産物について話してくださり、より東北の特産物に興味を持つことが出来た。このように復興市を利用することで経済的な支援になると同時に、一方的ではない復興支援ができるのではないかと考えた。

もし次回もこのようなボランティアの機会があるならば、復興市に立ち寄る(昼食を復興市でとる等)機会を設けることが出来ればよいのではないかと強く感じた。

4. 今回、企画してくださいました浅野代表に、一言お願いします。

大変貴重な機会を頂き、本当にありがとうございました。もし今回このような機会に参加せず被災地を実際に見ることなく過ごしていたら、去年の出来事が自分の中で風化してしまっていたらと思います。今私は震災前と変わらない生活を送っており、被災地に関してもテレビであまり報道されることも無くなっています。だからこそ東北の現状を、実際に自分の目で見て、体で感じる事がいかに大切かを改めて実感しました。実際に自分に関わることで、外の世界で起こっている事ではないのだと強く感じる事ができました。復興も現在次の段階に入ってきているようですが、これからが今後の被災地にとって大変な所だと思います。今後も継続して復興の力になればと考えています。

以上

夏季気仙沼市大島でのボランティア活動 活動レポート

(商) 学部・(2) 年

1. 今回のボランティア活動を通して感じたことを記入してください。

今回、私は初めて中央大学による被災地ボランティアに参加しました。気仙沼などの津波の被害にあった場所へ行くのは二度目でしたが、やはりあの地へ行くと心が苦しくなるのは行きのバスから感じていました。

ボランティア活動をして一番強く感じたのは、やはり被災された方々は未だに元のような生活からは程遠いということです。そして、私たちが行った植林活動や海岸清掃は直接、被災者の方々に何かできてあげているわけではないということです。しかし長い目で見れば僕らが行った活動が大島や気仙沼のためになっているのであれば嬉しいです。

海岸清掃では正直気持ち的にやっていて辛くなる時もありました。ゴミ拾いをしていて、中学生くらいのジャージであったり、小さい子供のぬいぐるみだったり落ちていたからです。それらの持ち主はどうなっただろうと考えてしまって、やるせない気持ちになりました。また、普通の海岸ではまず考えられないようなゴミが落ちているので、津波の恐ろしさや凄まじさをすごく実感しました。4日間自分ができたことは被災地にとって本当に僅かでしたが、20年間生きてきた中でもとても濃い経験ができました。

2. 今後、被災地支援のために何をすべきだと思いますか、また、何をしたいですか。

私たちのようなただのボランティアができることもまだまだたくさんあるけど、やはり被災者の生活を元通りに戻していくことの方が私は重要であると考えます。

大島でいえば、観光地としてもっと人を呼べばと島の人々の仕事ももっと増えるだろうし、活性化すると思います。

また、私たちが行ったような植林や海岸清掃などの人間の手でしかできないことも継続的に行っていくことも重要だと思います。

3. 被災地支援へのアイデア（イベントの提案や活動方法など）を記入してください。

被災地には美味しいものを始め、たくさん魅力的なものがあるので、それらの復興市のようなものをもっと東京などの人が集まるところで大々的にやると人々の関心も集まるのでいいと思います。

あとは、逆に被災地を巡ってその土地と特産品を食べ、観光をして被災地に貢献することもボランティアの一貫になるのではないかと考えています。そういったことによって東北の魅力を知り、帰ったあとも家の近くで東北のものが売っていれば興味を持ちそれも被災地支援に繋がり、どんどんいい方向に働いていくと思います。

4. 今回、企画してくださいました浅野代表に、一言お願いします。

今回は私たちのためにこのようなボランティアを企画して下さり、本当にありがとうございました。私にとっては初めての被災地ボランティアであり、本当にかげがえのない経験になりました。ボランティア活動を通して被災地のためになにかすることができたということも大きいですが、何よりまた気仙沼や大島に行きたいと思わせてくれたのでとても大きなものを得られました。これからも、被災地のために自分なりに何かしていきたいです。ありがとうございました。

以上

夏季気仙沼市大島でのボランティア活動 活動レポート

(商) 学部・(3) 年

1. 今回のボランティア活動を通して感じたことを記入してください。

ボランティア活動を通して、一人一人ができることは所詮少しだけれど、それが集まると本当に大きい成果に繋がるのだということを実感しました。

活動前は雑草などで荒れていた土地が、私たちの活動によってみるみるうちに綺麗になっていき、最後には樺の苗木がしっかり植えられた状態になっていました。

また、私たちが今回清掃したお伊勢海岸は、震災直後は手の付けようがないほど物で溢れた状態であったそうです。それを何百人ものボランティアによって、何か月もかけて、今日の状態まで回復させたとのことでした。それを実際目の当たりにして、一人一人の小さな力の尊さを実感しました。

私が今回のボランティアで植えた樺の苗木の数はほんの数本であるし、集めることができたごみの量は何kgもなかったと思います。以前の私は、「私のできることなど本当に小さいことでそれほど役に立たないだろう」という考えで、ボランティアに参加する意義をそれほど見出すことができませんでした。しかし今は、一人一人の小さな力の尊さを知ることができたのでそうは思いません。自分達の活動に対しても、「小さな活動だけれど、大きな成果を生み出す一部になれたかな。」と誇りに思うことができました。この気持ちを大切に、これから先誰かのために、たとえ小さくても自分の力を一生懸命尽くすことのできる人になりたいと思います。

また今回のボランティアでは、気仙沼大島の中学生や小学生と交流する機会がありました。子供たちの明るさにとっても元気ももらいました。一緒に遊ぶことでとても喜んでくれて、とても嬉しかったです。気仙沼大島の未来を担うのは、今子供である彼らなんだな、と思うと、その子供たちがどのような教育をうけるか、どのように育っていくかということは、被災地復興を考えたときにとっても重要な問題であると感じました。

2. 今後、被災地支援のために何をすべきだと思いますか、また、何をしたいですか。

観光地として、気仙沼大島を有名にするべきだと思います。SNS を利用して、このボランティアで見た気仙沼大島の美しさを皆に広めていきたいです。

3. 被災地支援へのアイデア（イベントの提案や活動方法など）を記入してください。

ネット上で大島の物産を売る。学食で被災地のフェアをする。

4. 今回、企画してくださいました浅野代表に、一言お願いします。

この度は、有意義なボランティアプログラムを企画してくださいまして本当にありがとうございました。私は一人で初めてボランティアに参加したため、不安で一杯でしたが、このプログラムでは宿舎や交通手段など全てがしっかりと整っていて安心して活動することができました。多くのことを感じ、心に残る4日間を過ごすことができました。本当にありがとうございました。

以上

夏季気仙沼市大島でのボランティア活動 活動レポート

(商) 学部・(3) 年

1. 今回のボランティア活動を通して感じたことを記入してください。

3泊4日という短い期間でしたが、毎日が驚きの連続でした。基礎だけが残った住宅、高く積み上げられたがれき、津波に流され一部が消失した線路など私が住んでいる街では見かけることのない風景が広がっていました。震災から1年半という月日が経つというのに、完全に復旧したとは言えない状況に言葉が出ませんでした。メディアで取り上げられる頻度も少なくなり、私たちの記憶から薄れていく感があった事は否めません。しかしこうして自分の目で確認したり被災された方からお話を伺うことで、忘れるのではなく多くの人へ伝えていかなくてはいけないと強く思いました。

2. 今後、被災地支援のために何をすべきだと思いますか、また、何をしたいですか。

椿荘の村上さんもおっしゃっていましたが、震災当時が「復興」の段階であったのに対し、現在は「復旧」の段階。がれき撤去やインフラ整備などやるべき事は数えたらきりありませんが、第一に優先されるべきなのは被災地で経済活動が行われることです。例えば、ボランティア活動をする人が被災地で宿に泊まったり、お土産を買ったりするのも結果的には経済活動を潤し、そこに住む人々の暮らしを豊かにするかもしれません。私も都合が合えば定期的に被災地へ足を運びたいと思っています。

3. 被災地支援へのアイデア（イベントの提案や活動方法など）を記入してください。

被災地の特産品をPRする展覧会を都心で開催するのも一つの方法だと思います。メディアによって広まった風評被害を減らすことが先決です。まずは現状を知らない人々が被災地に対するネガティブなイメージを取り去ること、全てはそこから始まると思います。

4. 今回、企画してくださいました浅野代表に、一言お願いします。

今回ボランティア活動をするにあたり、多岐に亘る多大な支援をしていただき誠に有難うございます。C-plusで情報入手し、応募させていただきました。自分の目で被災地の現状を確かめることで、被害の深刻さを再認識する良い機会となりました。私にとって貴重な4日間でしたし、この経験を今後の人生に生かしていきたいと思っています。有難うございました。

以上

夏季気仙沼市大島でのボランティア活動 活動レポート

(商) 学部・(3) 年

1. 今回のボランティア活動を通して感じたことを記入してください。

何かしたいが行動できないという思いを払拭して、やっとの思いでボランティアへの参加をしました。しかし、いかに自分が微力であるか、無知であるかを思い知らされました。そのことが知れたということは私にとっては大きな収穫でした。また、ボランティアを通じて、人がつながれば大きな力になるということにも気づかされました。お伊勢浜海岸を清掃した際に、ボランティアセンターの方が「ここでの作業はリレーです。ボランティアのみなさんがバトンをつないでいるのです。」とお話しして下さったことがとても印象深いです。1人の力は微力だったとしても、集まれば大きな力になるということ、絆はどこでも生まれるということを改めて実感しました。

もちろん自然、災害の脅威も感じました。テレビで見ると実際に現地で見るとでは、印象が大きく異なっていました。少なからず衝撃を受けましたし、慰霊碑を目の前にした時は自然と涙がこぼれてしまいました。情報の多い東京では、今の被災地の「現状を知る」は難しくなってきました。もはや震災のことさえ風化しつつあります。今回、ボランティアに参加したことで今被災地が置かれている状況を自分の目で見られたということは、今後には必ずプラスになると思います。

2. 今後、被災地支援のために何をすべきだと思いますか、また、何をしたいですか。

まだ瓦礫処理などが手つかずのところもあるそうですが、「復旧」よりも「復興」を行う段階まできているところが多いということです。現地にボランティアに行くことも、そこに行って現状を知ること大事だと思います。しかし、それが困難な場合もあると考えられます。そこで、「東京でもできること」をすべきだと思います。今の被災地がどんな状況か知らない人も、知らなければ忘れていってしまうと考えられます。私に限って言えば、すでにボランティアを経験しているので、その体験や現状をより多くの人に広めていくことが考えられます。学生の間であればSNS(フェイスブックやツイッターなど)を使って伝える、身近にいる家族などであれば直接話して伝えていくことができると思います。

3. 被災地支援へのアイデア(イベントの提案や活動方法など)を記入してください。

ボランティアのミーティングの中では、現地ではなく東京でできる支援も有効なのではないかという意見がありました。被災地にはまだ観光客はなかなか戻ってこないという状況があり、行きたければ、被災地の特産物の販売をすること、そして被災地の今を知ってもらうこともできます。その収益は被災地の方々にももちろん還元されるわけですから、その費用で復興を進めていくこともできるかもしれません。「人を取り戻す」という、復興に一番大事なことを行っていくための第一歩になるかと考えられます。

4. 今回、企画してくださいました浅野代表に、一言お願いします。

ここで得たことは必ず次に活かしていきますとっております。被災地を実際に見た衝撃はいまでも自分の中にしっかり残っています。まずは日々、意識を少しでも被災地に向け、決して忘れることがないように努力していきます。それとともに、「今自分には何ができるか」ということを常に考えたいとっております。ここで生まれた絆も、被災地に足を運び、汗を流しながら誰かのために行動したことも忘れません。

今回はこのような企画をして下さり、本当にありがとうございました。至れり尽くせりで、私たちがボランティアする環境としては整いすぎているのではないかと思います。素晴らしい環境の中でボランティアをさせて下さった浅野様には本当に感謝しております。

以上

夏季気仙沼市大島でのボランティア活動 活動レポート

法学部・2年

1. 今回のボランティア活動を通して感じたことを記入してください。

震災から約1年半が経ちましたがだんだんと少しずつ復旧が進んでいるなと思いました。私は、一年前の9月と半年前の3月に大島へボランティアへ来たのですが来るたびに少しずつ変わっていているのを感じました。去年あった一階部分のない建物たちが撤去されていたり、新しく建てている建物があったりと変わっていました。ただ、まだ完全に復興したとはいえる状況ではありませんでした。やることが限られてきてはいるけれどボランティアでもできることがまだまだあるということもわかりました。現地に行かなければわからないことも沢山あります。まだ自分たちがやれること、やらなければいけないことがあると感じ、このようなボランティアは継続していかなければだめだと思いました。

2. 今後、被災地支援のために何をすべきだと思いますか、また、何をしたいですか。

今回のボランティアでまだまだボランティアは必要なんだと感じました。ただ、今までのような瓦礫撤去などの復旧のためのボランティアから復興のためのボランティアがメインになって行くでしょう。復旧させたから終わりではなく、以前のような生活に戻れるまで支援していかなければだめだと思います。そのためにはもっと被災地に目を向けていくべきです。漁業などの復興の為にボランティアや観光に行くのも一つのボランティアでしょう。もう一年半が経って被災地のニュースなどはかなり減ってきているので普通の人の頭の中では過去の事のようになってしまうけどまだまだ助けが必要だ、ということ伝えるのも直接ボランティアに行った人が周りに広めていかなければならないと思います。

3. 被災地支援へのアイデア（イベントの提案や活動方法など）を記入してください。

今回のボランティアの報告会を開くことも少しは支援につながると思います。実際に見て感じたことを興味のある人たちに伝えていく事は大切だと思います。あとはミーティングでも出たように被災地の特産物の購入や被災地で作られたものを積極的に購入することなども小さいことですが支援になると思います。また、観光地としてのPRなどを行い観光としていく人を増やすことも大切だと思います。何もしないというよりかはどんなに小さいことでもこまめにやっていくことが必要だと思います。

4. 今回、企画してくださいました浅野代表に、一言お願いします。

今回もこのような貴重な体験をさせていただき本当にありがとうございました。活動中も飲み物など準備していただきすごく助かりました。今回のボランティアで感じたことは今回だけで終わらせずに次に生かしていきたいと思います。今回の体験を生かして今度は自分から活動していきたいです。本当にありがとうございました。

以上

夏季気仙沼市大島でのボランティア活動 活動レポート

商学部・3年

1. 今回のボランティア活動を通して感じたことを記入してください。

まずは行って良かったと感じました。被災地での復興支援活動は今回が初めてでしたが、メディアを通してだけでは絶対に見聞きすることのできない被災地の現状を少しでも知ることができました。また、グループワークを通して、震災に対する様々な意見を聞くことができたため、今後自分がどう行動すべきかという点において多角的な視点を得ることができたと感じています。ボランティア活動を通して私は生命の大切さを痛感しました。被災された方々の一人ひとりに大切な命があり、大切な家族や友人がいたはずです。それを一瞬にして奪われ、失われた悲しみははかりしれません。そのような方々がいる中で自分が生きている、生かされている尊さを感じました。私は自らの人生を有意義に歩むとともに、被災された方々の気持ちを少しでも感じ取ることができる努力をしたいと思います。

2. 今後、被災地支援のために何をすべきだと思いますか、また、何をしたいですか。

被災地の現状を身近な家族や友人に伝えることが最も大切であると考えます。例えば、現在は復旧から復興に向かっていることや、復興には数十年の期間がかかること、現在でも行方不明者と遺体の捜索が続いていることなどです。現状を周囲の人に伝えることで多くの方が被災地に関心を向け、正しい理解をし、直接足を運ぶ可能性があるからです。また、地元に戻っても各自が被災地産の商品を購入することで被災地の産業・経済の支援をすることも必要であると考えます。

3. 被災地支援へのアイデア（イベントの提案や活動方法など）を記入してください。

- ・被災地の特産品を扱った学食のメニュー作り
- ・校内での被災地に関する講演会
- ・学生主体での大々的な被災地に関するレポート発表会
- ・被災地の写真展示会（震災前、震災直後、現在という流れで）

4. 今回、企画していただきました浅野代表に、一言お願いします。

今回のような企画と莫大な経済的支援をしていただいたことに深く感謝申し上げます。私は、大学の中には被災地に行きたくてもお金がないためにいけない学生がたくさんいると思っています。また、私自身の変化としては、実際に被災地に訪れたことでさらに長期的な支援が必要であると感じました。このような活動は私にとり、今後を考える上で重要な体験になりました。またこのような機会があれば是非参加させていただきたく思っております。

以上

夏季気仙沼市大島でのボランティア活動 活動レポート

(法) 学部・(2) 年

1. 今回のボランティア活動を通して感じたことを記入してください。

今回のボランティアで私は、初めて被災地に行きました。今までは、テレビや新聞などでしか被災地の現状を知る機会がなかったので非常に貴重な経験をすることが出来ました。

実際に被災地に行って見て、被害の大きさを改めて痛感しました。それと同時に一年でこれだけ復興が進むのだなと驚かされました。気仙沼市内や大島も多くのところで、被害があったことを感じさせないくらいきれいになっているところもありました。そういった現状が多くの方の努力を表しているような気がしました。

また、復興は次のレベルに進まなければならないのだと感じました。いままでは、清掃活動などのいわゆるボランティア活動が被災地で行われてきたと思うのですが、これからは観光地として、経済的に復興していくことが重要なことになるのではないかと思います。

2. 今後、被災地支援のために何をすべきだと思いますか、また、何をしたいですか。

1. にも書いた通り、被災地をいかに前のように観光地として人々に認知してもらうかが重要になっていくのではないかと思います。そのために必要なことが被災地は今どれだけ復興が進んでいて、どれだけ魅力的になったかということも多くの人に伝えるかだと思います。

それを伝える手段はたくさんあると思います。親や友達に口を使って伝えることもできるとし、写真や映像を使って、被災地の現状をわかりやすく伝えることもできると思います。

今、メディアではほとんど被災地のことを取り上げなくなり、被災地の現状を知る手段が少なくなってきています。なので、私たちが被災地の現状を正確に多くの人に伝えることが大切になってくるのではないかと思います。それが、私たちがこれからの被災地のためにできる最大のボランティアだと思います。

3. 被災地支援へのアイデア（イベントの提案や活動方法など）を記入してください。

私は、被災地の魅力を伝えることが大切だと考えています。なので、被災地の今の魅力を伝えられるような写真展を中央大学内などで開催することが被災地支援につながるのではないかと考えます。

4. 今回、企画してくださいました浅野代表に、一言お願いします。

今回のボランティアを通して私は、多くのものを見ることができましたし、多くの友人と意見交換することもできました。また、実際に被災地に行かなければ聞くことのできない地元の方々の被災地に対する思いも聞くことが出来ました。本当に素晴らしい体験をすることができました。このような貴重な機会を与えてくださった浅野様には、心から感謝しております。この度は本当にありがとうございました。

以上

夏季気仙沼市大島でのボランティア活動 活動レポート

(文) 学部・(2) 年

1. 今回のボランティア活動を通して感じたことを記入してください。

私たちにできることは本当に小さなことだと痛感しました。しかし小さな事でも継続してボランティアをしていきたいとも思いました。直接行かなければ分からないこともたくさんありました。復旧の段階が終わり、これからは復興が必要になるというお話を伺いました。そのために、ボランティアとして現地に行くことも大切ですが、観光をしにもっとたくさんの人が訪れるように少しでも被災地の今を知り、伝えることが大切だとも思いました。

2. 今後、被災地支援のために何をすべきだと思いますか、また、何をしたいですか。

復興のために、観光として被災地に足を伸ばしたいです。そうすることによって宮城や福島の魅力を自分自身多く知って、周囲の人たちにも伝えたいと思います。また、行くことができなくても、東北産の物を買うことを心がけていきたいです。今回ボランティアで行った大島にも椿という名産物があるので、椿油を買うなど、関わりを持ったところから自分の生活とつなげていきたいです。

3. 被災地支援へのアイデア（イベントの提案や活動方法など）を記入してください。

デパートの催事場では様々な場所の物産展が開かれているので、そういった場所を利用して東北の物産展を開くことが経済の復興に直結するし、知名度をあげることもつながると思います。そういった、人の多く集まる場所で、被災地の現在の様子を写真で見ってもらう事も、関心につながるのではないかと思います。

4. 今回、企画してくださいました浅野代表に、一言お願いします。

3. 1 1の地震の日から今まで被災地に対して何もできなかったのが、今回このボランティア活動に参加することによって現地との関わりを持つことができ、微々たるものですが、力になることができ本当に良かったです。機会を与えてくださり、本当にありがとうございました。一緒に参加した他の学生との関わりや話し合いも、新しい考えを知る大変良い刺激になりました。参加したことで知った現地の様子を周りに伝え、ボランティアを通してつながることのできた仲間とも、今後の被災地のことを話し合っていきたいと思えます。

以上

夏季気仙沼市大島でのボランティア活動 活動レポート

(総合政策) 学部・(1) 年

1. 今回のボランティア活動を通して感じたことを記入してください。

震災から約1年半の月日が経ち、ボランティアのあり方が変化していることを身にしみて感じました。がれき撤去の際は、(言い方は悪いですが)住民もボランティアもがれきを片づける、という共通の目標に沿って行動していれば良かったのですが、いざ町作りとなると、住民や企業、行政間の利害関係や、住民の復興ビジョンの意思統一を図ることが非常に難しく、復興が全然進んでいない地域が多々あることを実感しました。産業の復興、暮らしの再建といった問題を解決することは簡単なことではありませんが、我々被災地以外の人間も、被災地の現状を理解し、考え続けることが大切であると感じました。

2. 今後、被災地支援のために何をすべきだと思いますか、また、何をしたいですか。

被災地以外に暮らす我々も被災地域に思いをはせ、被災地の復興についてしっかりと考えていくことがとても大切なことだと思います。学内で被災地に入った学生がプログラムごとに現地報告会を行い、現地に行っていない学生に関心を持ってもらうと同時に、現地の様子やニーズを一人でも多くの学生に伝え、現地に足を運んでもらって自分の目で状況を見てくることで、現地にお金が入るとともに、学内でも現地の支援の在り方をもっと活発に議論することができるのでは、と感じました。

3. 被災地支援へのアイディア(イベントの提案や活動方法など)を記入してください。

大学(ないしは学生団体)が被災地の生産者と直接取引し、被災地の食材、調味料を学食メニューの中で利用することを提案します。中間業者を加えないことで、マージンが直接生産者に入り、被災地の産業復興に役立つのではないかと考えます。また、多摩センターや立川など近隣都市で物産展などを企画し、現地の生産者に売り上げを渡すことで、生活の再建や産業の復興のお手伝いをすることができると思います。さらに、学内での定期的な現地報告会(学部棟で行い学生に気軽に立ち寄ってもらえるようにする)を行って、現地の現状を知ってもらうことも非常に大切なことだと改めて感じました。

4. 今回、企画してくださいました浅野代表に、一言お願いします。

私は今夏、初めて被災地に足を運びました。(このプログラムの前に陸前高田に2泊していました。)気仙沼に入る前には南三陸町の光景を目にし、何とも表現しがたい虚無感のような感情を覚えました。大島の現状を知り、景観を良くするために椿を植樹出来たことも非常に有意義なことでしたが、お伊勢浜海岸での清掃活動の中で、人々の衣類やビデオテープを自らの手で回収し、微力ながら復興に協力できたことがとても印象に残っています。

今回被災地に入り、テレビの前だけでは分からない被災地の現状を知ることが出来ました。今後、私が周囲に発信し、何らかの提言や更なる復興支援をしたいと考えています。信行寺様のご支援の下、このような貴重な経験をさせて戴けたことに、心から感謝申し上げます。本当にどうもありがとうございました。

以上

夏季気仙沼市大島でのボランティア活動 活動レポート

(経済) 学部・(2) 年

1. 今回のボランティア活動を通して感じたことを記入してください。

今回、私は初めて被災地ボランティアに参加しました。実際、被災地に行ってみると自分が思っていたよりも瓦礫や木材などが少なく、きれいになっていて驚きました。ただ、瓦礫の山や木材の山が所々あり、処分する場所がなく困っているのかと思いました。

2. 今後、被災地支援のために何をすべきだと思いますか、また、何をしたいですか。

自分が今回体験したことを多くの人に伝えることだと思います。現在、以前ほどメディアは東日本大震災のことを報道しなくなり、被災地の状況を知ることが難しくなっていると思います。そのため、自分の目で見たことを多くの人に伝え、忘れないことが重要だと思います。

3. 被災地支援へのアイデア（イベントの提案や活動方法など）を記入してください。

大島は自然豊かで海がとてもきれいでした。このような大島の魅力を伝えて、1人でも多くの人が観光で訪れることにより、お金を消費して経済活性化のきっかけにつながると思います。

4. 今回、企画してくださいました浅野代表に、一言お願いします。

今回、被災地ボランティアを企画してくださいましてありがとうございました。前からボランティア参加したいと思っていましたが、なかなか行動に移れませんでした。大学と連携していることで安心して参加する決心ができました。本当にありがとうございました。

以上

夏季気仙沼市大島でのボランティア活動 活動レポート

(商) 学部・(三) 年

1. 今回のボランティア活動を通して感じたことを記入してください。

震災から一年と半年近くが過ぎガレキ等も徐々に整備されてきていたが、注意深く目を向けると車やヨットが山積みになっていたり鉄道が途中でなくなっていたりと震災前の町並みとはまだまだ程遠い状態であるなどというのが最初に感じたことだった。そのような状況でも被災地の人々が普段の生活を営んでいる姿が印象的だった。また、実際に現地の方のお話を伺ったなかで気仙沼を被災地として人が出ていくではなく観光地として人が集まるような街にしたいとおっしゃっていたことに感銘を受けた。今回の活動で多くの学生と同じ目標を持って共に行動したり意見を交わし合ったことは自身の勉強にもなったし、貴重な経験をさせてもらったと思う。

2. 今後、被災地支援のために何をすべきだと思いますか、また、何をしたいですか。

今回のボランティア活動で感じたことや考えたことをたくさんの人に伝えていきたい。具体的には、現在自分が利用している Twitter や Facebook を通じて被災地の様子や活動を通じて学んだことを身近な人から発信し関心を集めるようにしたい。また被災地への経済的援助を継続していきたいと思う。募金活動や東北産の食材を購入するように心掛けるなど普段の日常生活のなかで無理なくできることを継続して行うべきだと思う。

3. 被災地支援へのアイデア（イベントの提案や活動方法など）を記入してください。

東北の物産展を開催するなど東北の魅力を伝える活動を今まで以上に展開していくべきだと思う。震災後、企業内でボランティア休暇を取得する人が増えたという話を聞いた。ボランティア休暇は今回の震災を受けて多くの人に認知されるようになったしこのような被災地を支援する取り組みが企業などをはじめとして社会的にさらに広がっていけばよいと思う。大学でもボランティア休暇(もしくはそれに似た制度)を導入するなど学生がボランティアに参加しやすいような環境がもっと整備されてくれれば嬉しい。

4. 今回、企画してくださいました浅野代表に、一言お願いします。

震災後、貢献できたことと言えば募金活動しかなかった私は、実際に被災地へ足を運んで被災地の状況を直接見るとともに、ボランティア活動に参加したいと考えていました。しかし、一人ではなかなか行動に移せずにいました。今回、このような活動を企画してください、ボランティア活動に参加するきっかけを提供して下さったことにお礼を申し上げます。今後も多くの学生がボランティア活動に参加できるよう、このような企画を継続してしていただけたら嬉しいです。ありがとうございました。

以上

夏季気仙沼市大島でのボランティア活動 活動レポート

(商) 学部・(3) 年

1. 今回のボランティア活動を通して感じたことを記入してください。

何か力になりたいと思いつつもなかなか行動できずにいましたが、今回ようやく被災地ボランティアに参加し活動することが出来ました。この機会を大変嬉しく思います。被災地の状況は、想像していたより良くありませんでした。瓦礫の山や、崩れた建物、また家の土台だけが残ったあたり一面の原っぱを目の前にしたときは衝撃的でした。海岸には錆びた鍋や、中学校のジャージ、小さな長靴、など生活感の残るものが多く見つかり、心が痛みました。

自分達の活動は本当に微力だと感じましたが、これから先何十年もかけて、積み重ね、継続してボランティア活動を行っていくべきだと思います。

2. 今後、被災地支援のために何をすべきだと思いますか、また、何をしたいですか。

最近ではあまりテレビで被災地の状況を放送していないので、定期的に情報を日本国民に伝えるようにすべきだと思います。また、この東日本大震災によって被災した気仙沼市などは知名度が上がったとも言えるため、人々の関心が集まっています。これを活かし、観光や物産展を発展させていくことも重要だと思います。

私は今回の経験を活かし、これからも引き続きボランティア活動に参加したいです。大島は海も綺麗で、椿荘の皆様もとてもあたたかく、島を離れる時は寂しく思いました。またすぐにでも行きたいです。ボランティア活動としてではなく、観光にも行きたいです。

3. 被災地支援へのアイデア（イベントの提案や活動方法など）を記入してください。

大島の子どもたちと花火をする機会がありましたが、みんな本当に明るく元気よく、私が元気をもらう側になりました。今度は学校に行って、勉強を教えたり、一緒に遊ぶ機会があれば、と思います。

4. 今回、企画してくださいました浅野代表に、一言お願いします。

今回は素晴らしい機会を作ってください、ありがとうございました。自分ひとりでは何からすべきかわからず、ずっとボランティア活動をできずにいたと思います。また、活動中、私が靴ずれをしてしまった時は、応急処置もしていただき本当にありがとうございます。お手数おかけして申し訳ありませんでした。

今回の経験を活かし、これからも役立てていきたいと思っています。

以上

夏季気仙沼市大島でのボランティア活動 活動レポート

(商) 学部・(3) 年

1. 今回のボランティア活動を通して感じたことを記入してください。

実際に見る被災地の状況と、ニュースなどでみた状況とは全く感じ方が違いました。海岸清掃ではさっきまで誰かが使っていたような服や名前の付いたものなどが見つかったり、建物が壊れた跡が凄まじく、心が痛みました。自分は被災地ボランティアは初めてだったので、衝撃が大きく、自分になにができるのだろうか。微力ではあろうとも、できることだけは、やれるだけやろうと思いました。現地の人たちはみなさんとても温かく、優しく出迎えてくださり、自分の人生にとって、とても濃厚で充実した4日間を送れたと思います。とてもいい経験になりました。

2. 今後、被災地支援のために何をすべきだと思いますか、また、何をしたいですか。

また機会があるのなら、このようなボランティアに積極的に参加していきたい。そして、参加した経験を周りの人や自分の身近な人間に伝えていき、情報を共有していきたいと思います。そして、多くの人に直に被災地を見に行ってもらったり、目の前の現実で起きたことなんだという印象を与えていけたらいいと思います。

3. 被災地支援へのアイデア（イベントの提案や活動方法など）を記入してください。

被災地の特産品を全国規模で販売していけたらいいと思う。良くも悪くも知名度は上がったので、物産展などを開催していければいいのではないかと思う。活動方法は今回と同じような感じでも賛成ですが、やはり機会が少ないので、できるだけより多く機会があれば、今回のボランティアでもれた人も、興味があるけど参加する勇気がなかった人も、どんどん参加できると思います。

4. 今回、企画してくださいました浅野代表に、一言お願いします。

このたびは貴重な機会を設けてくださってありがとうございます。とてもよくしていただき、自分たちも安全に4日間過ごせることができました。自分の目で見た光景、印象は忘れずに、いろんな人に伝えていきたいと思います。また、自分にとっても今後の人生に生かしていけるよう頑張りたいと思います。とてもいい経験になりました。本当にありがとうございました。また機会があれば、そのときはよろしくお願いします。

以上

夏季気仙沼市大島でのボランティア活動 活動レポート

(商) 学部・(3) 年

1. 今回のボランティア活動を通して感じたことを記入してください。

私は、ゴールデンウィークにも信行寺さん主催の気仙沼大島ボランティアに参加させていただいたので、今回が2度目のボランティアでした。約4カ月ぶりに大島にきましたが、被災地は少しずつ復興に近づいているという感じがしました。5月に私たちがボランティアで活動した際に椿園をつくるお手伝いと、海岸の清掃をしたのですが、今回椿園を見に行くと、地面の土がどろどろで普通に歩くのでさえもいっぱいばいばいで、本当にここを椿園にすることができるのだろうか、と思っていた場所も、土がきれいに整備されており、私たちが植えた椿の木が生き生きとして、椿園らしくなっていたことに感動しました。また、清掃した海岸は、今年、宮城県内唯一の海開きとなったと聞き、私たちの活動が復興につながっていることを実感できてうれしかったです。

今回の活動でも、山に椿の苗を植える作業と、気仙沼の海岸清掃をしました。一見とても小さな活動のように思えますが、みんなで一丸となって取り組んだ活動は、被災地にとって復興につながる大きな力なんだと思いました。そして、また大島を訪れ、私たちが植えた椿の苗の成長や、清掃した海岸の様子を見に来たいと強く思いました。

しかし、復興している場所がある一方で、まだ東日本大震災が起きた日から時間が止まったままの場所もありました。5月の時と変わらず瓦礫の山や、基礎だけがのこっている家も数々ありました。いまだに仮設住宅に暮らしている人もいます。何度見ても胸が痛みました。気仙沼や大島だけでなく、他にも被災した場所は多くあります。機会を見つけてそのほかの被災地ボランティアにも進んで参加したいと強く思いました。

2. 今後、被災地支援のために何をすべきだと思いますか、また、何をしたいですか。

私は、やはり被災地の現状を周りの人に伝えていくことが大事だと思います。震災から約1年半が経ち、記憶が風化してきているという話も聞きますが、私は、被災地の方々の思い続けること、忘れないようにすることが大切だと思います。実際に目で見たこと、体験したことを、自分の言葉で伝えていくことに意味があると思います。身近な人からどんどん広めていき、その輪が広がっていくととても大きな力になると思います。

3. 被災地支援へのアイデア（イベントの提案や活動方法など）を記入してください。

今回活動してみて、現地の人たちとの交流はとても大切だと思いました。地元の方々と交流することで、心を開いてくれり、被災地を忘れないでいてくれているというのをうれしく思ってくれる方もたくさんいます。

また被災地の物産品を東京で売ったり、写真展を開いたりして、なかなか被災地に足を運ぶことができない人たちに被災地の状況を伝えていく活動も大切だと思います。

4. 今回、企画してくださいました浅野代表に、一言お願いします。

ゴールデンウィークに引き続き参加させていただきましたが、私にとってとても良い経験になりました。ゴールデンウィークの時とはまた違った感じ方ができましたし、参加することができて本当によかったです。また、暑い中での活動でしたが、信行寺さんの至れり尽くせりの対応のおかげで、誰もけが・病気等にならずに無事に終えることができました。このような機会を与えていただき本当にありがとうございました。ボランティアで経験できたことをいかして、これからもがんばりたいと思います。

以上

夏季気仙沼市大島でのボランティア活動 活動レポート

(経済) 学部・(4) 年)

1. 今回のボランティア活動を通して感じたことを記入してください。

私は以前、経済学部ゼミで「どのように東北の経済を復活させるか」というテーマで研究していました。実際に被災地に出向き、震災の傷跡がどれほどのものだったか、いかに自分たちが地に足のついていない議論をしていたのかと思い知らされました。

現在の被災地は、がれき撤去作業の次の段階に進んでおり、人同士の争いなど別の問題が起こっているという話も聞きました。様々な感情を抱える人々が協力し合うことの難しさ、「復興」がどれだけ労力のいることなのかという現実を突きつけられたような気がします。自分の目で見ることで、体験した方の話を聞くことの大切さを改めて感じました。

樺の植樹、海岸清掃といった実際の活動では、初めて会った仲間と共に目標を達成するため、交流を深めながら作業しました。いかに効率よく作業を進められるか、今何をすべきか常に考え、コミュニケーションをとることの重要性を学びました。更に活動の反省や感じたことを共有出来たことがとても良かったと思います。

2. 今後、被災地支援のために何をすべきだと思いますか、また、何をしたいですか。

一番に私は今回の活動で感じたこと、学んだことを多くの人に発信したいと思っています。被災地の現実を知ってほしいからです。震災の爪痕をもう一度確認して、被災地に目を向ける人を増やすことも支援につながると考えました。大島の方が東京のイベントに参加するとおっしゃっていたので、まずはそのようなイベントを友人などに広報したいと思っています。今後は復旧ではなく、被災地の経済的な復活のために地場産業支援の方法を考えていくべきだと思います。

3. 被災地支援へのアイデア（イベントの提案や活動方法など）を記入してください。

「大学で出来ること」

・被災地へボランティアに行っている学生は多いと思うので、参加を募って自分の経験や活動内容を報告してもらおう。活動報告をすることで被災地へ行こうと考える人が増えたら良いと思います。

・被災地支援のアイデア、被災地で立ち上げたい事業について考えるきっかけをつくる。学内プレゼンテーション大会のような大会を行えば、支援だけではなく、震災への意識も高まるのではないのでしょうか。

4. 今回、企画してくださいました浅野代表に、一言お願いします。

被災地ボランティアに参加したいと以前からの想いを形に出来たのは、今回の企画と出会えたおかげだと思います。微力ながら被災地に協力出来たこと、大変嬉しく思っています。また、ただ作業をするだけではなく、被災された方の臨場感あふれるお話や、地元の方々との触れ合えたことでボランティア活動の意義が再認識できました。次は自分が被災地の現状や経験したことを発信していきます。また参加したいと思うような被災地ボランティアを企画してください、本当にありがとうございました。 以上

夏季気仙沼市大島でのボランティア活動 活動レポート

(経済) 学部・(2) 年

1. 今回のボランティア活動を通して感じたことを記入してください。

初めて被災地を訪れ、そして初めてのボランティア活動であり、最初は右も左も分からない状態であったが、みんなと積極的にコミュニケーションを取れたお蔭で個人的には効率的に作業が行えたのではないかと思う。被災してからもう一年以上経過しており、自分が想像していたよりは街並みが綺麗に思えたが。ところどころ瓦礫の山があったりと、まだまだ復旧、復興するには時間がかかるのではないかと思った。最近メディアで伝えられる機会がめっきり減ってしまった為、自分が見たこと、感じたこと一人でも多くの人に広められたらと思う。

2. 今後、被災地支援のために何をすべきだと思いますか、また、何をしたいですか。

ある程度、人の手を必要とする活動は終わり、これからは復興するためにどのようにして大島を盛り上げていくかが重要だと思う。初めて大島を訪れてみて思ったのは海がとても綺麗だと言うこと。これを観光事業の一環として組み立ててければなと感じた。さらに大島の椿を利用した椿オイルなど一定のブランド力も持っているなのでこの二つを復興の中心として、変な言い方ではあるが、利用していくべきだと思う。

3. 被災地支援へのアイデア（イベントの提案や活動方法など）を記入してください。

上記の二つを広める方法として、都心部における物産展に出店することは有効ではないだろうか。そこにメディアの力を利用して、被災地からの出店となれば過剰にピックアップされるだろうし、情報のスピードの速い都心部で活動することは、復興それ自体のスピードも上がると思う。

4. 今回、企画してくださいました浅野代表に、一言お願いします。

この様な企画がありませんでしたら、被災地の現状を知る由もありませんでしたし、なにより微力ではありますが、自分の力が少しでも役に立っているのだと身に染みて実感することが出来ました。浅野代表をはじめ信行寺のみなさま、大変お世話になりました、本当にありがとうございました。

以上

夏季気仙沼市大島でのボランティア活動 活動レポート

(理工) 学部・(2) 年

1. 今回のボランティア活動を通して感じたことを記入してください。

実際に現地へ行って震災から1年6か月経つ被災地の状態を知ることができた。村上さんの話を聞いて、震災当時の心境、震災後から現在までの気仙沼市内や大島の復興への動きを知ることができた。復興という言葉に対し人々は様々なビジョンを持っていて、くいちがいもあり、衝突することもしばしばあると知り、被災者同士の衝突が復興への障害となる得ることを知り、とても複雑な気持ちになった。ボランティア活動をしたが、復興に向けて自分ができたことは本当に小さなことであったと感じた。それでも島の人に感謝されたときは素直にうれしかったし、この先も何らかの形で大島やほかの被災地の方々と関わっていきたいと感じた。

2. 今後、被災地支援のために何をすべきだと思いますか、また、何をしたいですか。

・ 公共整備

主な交通網の整備はだいぶ進んでいるので、次はもっと細かい部分の整備を行うべき。ボランティアで様々な場所でのがれき、ゴミ拾いをするのは今後も継続すべきであると感じた。

・ 個人的な支援

被災者の就職支援、人手不足な産業者への手助け、高齢者や障がいのある方の日常生活でのヘルプなど、被災された方への個人単位の支援が必要であると感じた。

3. 被災地支援へのアイデア（イベントの提案や活動方法など）を記入してください。

- ・ がれきやごみを拾うことは被災地をきれいにするだけでなく環境への配慮にもなるので、長期にわたりこの先も継続すべきであると感じた、
- ・ 大学の（学園祭などの）イベント時などに募金や物産展を行い、そこでの利益を被災地に寄付するなど

4. 今回、企画してくださいました浅野代表に、一言お願いします。

浅野様、信行寺様、このたびは大変お世話になりました。今回の企画が無ければ自分が被災地へ赴く気持ちには中々なれなかったと思います。金銭的な支援、飲み物などの物資的支援を受けて、この4日間は本当に浅野様、信行寺の方々にお世話になりっぱなしでした。ですので、ボランティア作業では自分のできることは本気で、率先して行うように心がけていました。ボランティアが終わった今は今回の経験や知ったことを身近な人に知らせることが私の使命であると感じております。この先、被災地、被災された方々に向けて自分ができることは何かを考えながら日々を過ごし、積極的に被災地支援に参加してゆこうと思います。

以上

夏季気沼市大島でのボランティア活動 活動レポート

(法) 学部・(2) 年

1. 今回のボランティア活動を通して感じたことを記入してください。

私は被災地の現状を知るために、そしてそれに合わせて自分が今できることをしていきたいと思い、今回のボランティア活動に参加することを決めました。被災地の現状は、考えていたよりももっと復興に向かっているようで、初めは本当に津波が襲った地域なのだろうかと思ってしまうほどでした。しかし、やはり奥に進めば進むほど山積みにされた車やがれき、特に防災対策庁舎の無残な姿を生で目にしたときは津波の恐ろしさを思い知らされ、唾然としてしまいました。椿山で作業をしているときも通常であれば山にはあるはずのない貝殻があり、海岸清掃のときにも家の断熱材が出てくるなど、目を追うごとに津波が襲ったことや自然の前では人がいかに無力であるかをひしひしと実感させられてしまいました。ですが、そんな中でも椿荘の方々をはじめ、島の方、気仙沼の皆さんはとても明るく温かく、前に向かって進んでいることにも改めて気づかされました。また、私たちはボランティア活動という共通の目的をもって大島に集まりましたが、ほとんどの人が初対面であったにもかかわらず、協力して活動をすることができました。その結果、微力ながら被災地の皆さんのお手伝いができたと思います。困難に立ち向かった時こそ人のつながりはとても重要であり、欠かすことのできないものだ強く感じた4日間でした。村上さんもおっしゃっていましたが、今回のこの経験、大島の現状を一人でも多くの人に知ってもらい、少しでも支援の輪を広げていきたいです。

2. 今後、被災地支援のために何をすべきだと思いますか、また、何をしたいですか。

今回はボランティアという形で現地での活動を行いました。東京においても私たちができることはたくさんあると思います。たとえば、店で被災地産の商品を積極的に買うだけでも経済発展のお手伝いになると思うので、そのような間接的なボランティアにも関わってきたいです。また、今まではがれきの撤去等がボランティアの主な活動となっていました。今後は現地の方々の心身のケアや学習支援など、ボランティアの範囲を広げていくべきであると思います。そして、こちらでも現地の状況を多くの人に伝え、復興に向かって皆さんが努力していること、とても素敵な場所であること、さまざまなことを知ってもらい地元の方や観光客が少しでも戻ってくるよう働きかけていきたいです。

3. 被災地支援へのアイデア（イベントの提案や活動方法など）を記入してください。

- ・東京など、さまざまなところで被災地の物産展をひらく。
- ・被災地の現状、魅力を伝えるために発表会、講演会を行う。
- ・学習支援等のための募金活動を行う。

4. 今回、企画してくださいました浅野代表に、一言お願いします。

今回このような貴重な機会を設けていただき、本当にありがとうございました。被災地について何か協力したいと思いつつも今までは具体的に何をしたらよいかわからず、積極的な支援をすることができませんでした。しかし、今回の活動を通して微力ながらも皆さんのお役に立てたことを嬉しく思います。今回だけでなく、今後も一人でも多くの被災地の方々の笑顔が戻るようにお手伝いできれば良いとさらに感じるきっかけとなりました。また、補助もたくさんしていただいたおかげで、活動にもより一層気持ちを込めて行うことができました。本当にありがとうございました。

以上

夏季気仙沼市大島でのボランティア活動 活動レポート

(法) 学部・(3) 年

1. 今回のボランティア活動を通して感じたことを記入してください。

現地に行ってみて、私の中では、津波や瓦礫などの当初の悲惨な状況の映像で、被災地のイメージが止まっていたためか、まず思ったのは、自分が想像していたより片付いているということでした。海岸清掃をしたお伊勢浜海岸でも最初は地震の影響が見受けられず、たくさんのボランティアの手により、ずいぶんきれいになっていて、海開きをしていないことを不思議に感じていました。しかし、実際清掃をしてみると、鉄やコンクリートなども落ちていて、被災する前と比べるとまだまだという段階ではないかと、考え直しました。また、お伊勢浜海岸の近くには分類された瓦礫が山になっていたり、津波によって流された車が山積みになっていたり、震災から一年半たったのにまだ時間が当初のまま止まっているところも多く、被災前や住んでいる人にとっては、まだ満足できるものではないと感じました。

2. 今後、被災地支援のために何をすべきだと思いますか、また、何をしたいですか。

今後の被災地支援はどんどん細分化されていくべきだと思います。それは地域ごとの被害・復旧の差、ニーズに応えるために必要不可欠なことです。そこで必要になるのが、被災地と何か力になりたいと思っている人たちをつなぐパイプ役です。できれば行政が主導となり、そのパイプ役が被災者の雇用につながれば、よりよい支援になると思います。

私個人としては、今回の活動の体験を周りに発信していく、風評に惑わされない、自分の中で震災を風化させないようにしたいです。

3. 被災地支援へのアイデア（イベントの提案や活動方法など）を記入してください。

被災地の要望に対し、支援のアイデアを募集し、コンテストを開く。例えば、観光産業に力を入れたかったら、その地域での被災の状況や被災前・現状を知ってもらい、それを踏まえた上での観光のアイデアを募集する。募集したアイデアでアイデアコンテストを開く。コンテストの収益で優秀なアイデアに選ばれたものを実現する。被災地に実際に行って支援できない人も、被災地の現状を知る機会となり、被災地のために何ができるかを考えることができる。

4. 今回、企画してくださいました浅野代表に、一言お願いします。

この度は、貴重な体験の機会をいただき、ありがとうございました。実際に現地に行くことで、わずかかもしれませんが、自分の目で被災地の現状を知ることができました。また、普段の生活では被災者の方と接することはできませんが、震災当時から現在までのお話を聞くことができました。震災から約一年半がたち、復旧のほうも進んできて、被災地では復興という同じ目的を持ちながら意見が分かれ、地域が分断されてしまうという新たな問題が起きていることは、被災地に行ってしかわからないことでした。このようなきっかけのおかげで、震災を自分なりに受け止め考えるようになりました。

以上